



しっかり、点検。

うまれる、安心。

点検・整備は、安全とエコにつながります。

クルマの **ECO** 始めてみませんか。  
 適切な点検・整備を行うことで車の燃費が2%程度改善されます。  
※ 国土交通省「自動車エコ整備に関する調査検討会報告書」(平成22年3月)より

●自動車の点検・整備のことが詳しくわかります。   [www.tenken-seibi.com](http://www.tenken-seibi.com)

推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会 後援：内閣府 警察庁 環境省  
 協力：自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構

(社)日本自動車整備振興会連合会・一般社団法人 日本自動車工業会・(社)日本自動車販売協会連合会・(社)日本中古自動車販売協会連合会・(社)全国軽自動車協会連合会・日本自動車輸入組合・(社)日本自動車運送・(社)全国自動車用自動車協会・(社)日本バス協会・(社)全日本トラック協会・(社)全国乗用自動車連合会・(社)全国レンタカー協会・(社)日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会・(財)自動車検査登録情報協会・(財)日本自動車教育振興財団・(社)日本損害保険協会・全国共済業協同組合連合会・全国労働者共済生活協同組合連合会・(社)日本自動車部品工業会・(社)全国自動車部品商団体連合会・全国自動車電装品整備施工組合連合会・一般社団法人 自動車用品小売業協会・(社)電池工業会・全国アイゼンポンプ振興会連合会・日本自動車車体整備協同組合連合会・全国タイヤ商工協同組合連合会・(社)日本自動車車体工業会・全国自動車部品販売店連合会・日本自動車部品協会 (順不同)



2010自動車点検整備推進活動

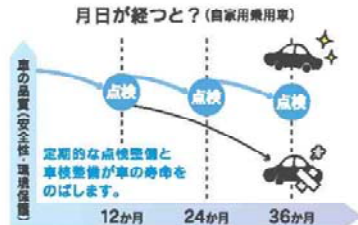
# 点検・整備で、クルマの健康チェック、エコにも貢献。

クルマのトラブルを防ぐとともに、地球環境のために点検・整備は忘れずに行ってください。特に長くご使用のクルマには、細やかなケアが必要です。

**日常点検** 日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検を行うことが必要です。チェックしてみましょう。

**定期点検** 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、自家用乗用車については1年ごとに実施しなければなりません。

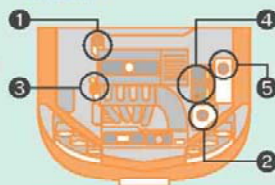
車検（自動車の検査）は、安全・環境面で国が定める基準に適合しているかどうかを一定の期間ごとに確認するものであり、次の検査までの安全性等を保証するものではありません。したがって、使用者は、日常点検整備や定期点検整備を確実に実施するとともに、使用に応じた適切な保守管理を行う責任が法律で定められています。



## マイカーを点検しよう! 日常点検 15 項目チェックシート

判定 ○ or X

### 日常点検 #01



#### エンジンルーム 5項目

- ① **ブレーキ液の量**  
ブレーキ液のリザーバタンクを見て、液量が上線ラインと下線ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下線ラインより低い場合は、安曇に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。
- ② **冷却水の量**  
冷却水のリザーバタンクを見て、液量が上線ラインと下線ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下線ラインに近いか、それより少ない場合は、上線ラインまで冷却水を補充しましょう。
- ③ **エンジン・オイルの量**  
エンジンに付いているオイルレベルゲージを抜きとり、付属しているオイルを抜きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインか、半ゲージ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下線ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。
- ④ **バッテリー液の量**  
バッテリーの液量が規定の範囲（上線と下線の間）にあるかを車両を揺らすなどで点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。
- ⑤ **ウインド・ウォッシュ液の量**  
ウインド・ウォッシュ液の量が適量かを点検します。液量が少ない場合は上線まで補給しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 日常点検 #02

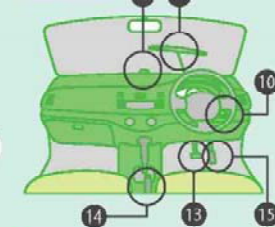


#### 外回り 4項目

- ⑥ **ランプ類の点検**  
クルマにはヘッドランプ、車輪ランプ、ストップランプ、テールランプ、ウィンカーなど、多くのランプが付いています。点検・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや異音も調べましょう。点検・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。
- ⑦ **タイヤの亀裂・損傷の有無**  
タイヤの亀裂や損傷の有無を目や手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。
- ⑧ **タイヤの空気圧**  
タイヤの接地部分のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部分のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。
- ⑨ **タイヤの溝の深さ**  
タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、濡れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが覆れたら、早急にタイヤを交換しましょう。溝スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出ます。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 日常点検 #03



#### 運転席 6項目

- ⑩ **エンジンのかかり具合・異音**  
エンジンが静やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。
- ⑪ **ウインド・ウォッシュ液の噴射状態**  
ウインド・ウォッシュ液を噴射させ、ワイパの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さも適量か点検します。
- ⑫ **ワイパの拭き取り能力**  
ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシュ液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパの拭き取りは、ガラスを傷つけるので、ウインド・ウォッシュ液を噴射してからワイパを作動させましょう。
- ⑬ **ブレーキの踏みしめるときき具合**  
エンジンをかけて両足がいつでも踏かかろうと、ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、前後との踏みしめ具合がどうか確認します。また、その踏みごたえがいつもと違うと異音も発生します。踏みごたえの弱いは、ブレーキペダルや足踏位置調整用のブレーキペダルのフィードバックが弱くなっている可能性があります。
- ⑭ **駐車ブレーキの引きしめ（踏みしめ）**  
駐車ブレーキをいっばい引いた（踏んだ）ときに、引きしめ（踏みしめ）が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキペダルと同様に、駐車時や定速点検整備との違いを比較してください。
- ⑮ **エンジンの低速・加速状態**  
エンジンを駆動させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに動くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセルペダルに引っかかりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

\*自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。